企業の生成AI活用における「社内データ品質・管理」の実態調査【2026年】

調査期間：2026年9月24日～9月27日
調査人数：554人

インキュデータ株式会社

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

はじめに

企業における生成AIの活用は、試験導入や一部部門での利用から、本格的な業務活用・全社活用へと広がりつつあります。一方で、AI活用を成果につなげるには、ツールの導入だけでなく、AIが参照する社内データの品質や管理状態が重要になっています。

そこでインキュデータは、生成AIの導入率ではなく、「AIが参照する“社内データ”がどこまで整備されているか」に焦点を当てた調査を実施しました。

本レポートでは、生成AIを導入・活用している企業と、検討・準備段階の企業によるデータ整備状況の違いや、現場で起きている具体的な課題、データ整備状況と成果との関係をご紹介します。

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

調査概要

調査名	企業の生成AI活用における「社内データ品質・管理」の実態調査
調査方法	インターネット調査
調査期間	2026年9月24日～9月27日
調査対象	• 性別：男女 • 年齢：20～64歳 • 地域：全国 • 従業員数300名以上の企業に勤務 • 主任・係長以上の役職者 • データ活用、AI活用、ガバナンスなどに業務上関与している方
有効回答数	554名 ＜内訳＞ • 生成AIを導入・活用している層 279名 • 生成AI導入を検討・準備している層 275名
調査実施機関	GMOリサーチ&AI株式会社

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

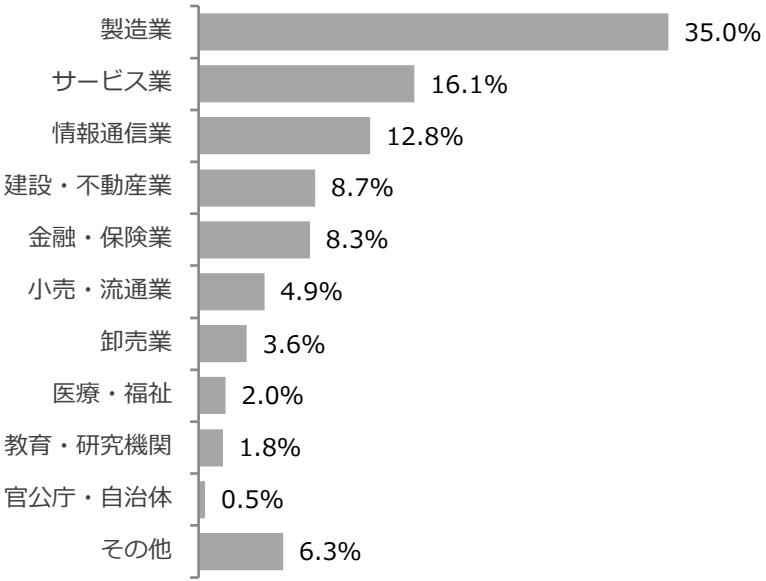
調査レポート

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

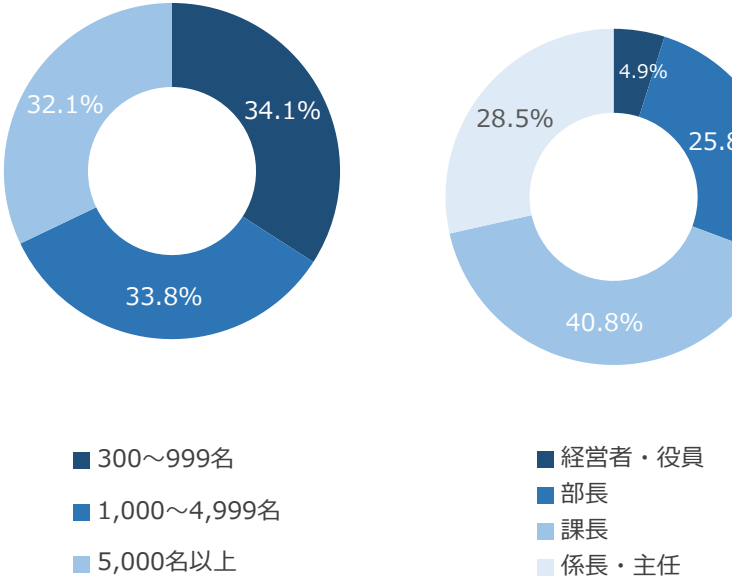
回答者属性

製造業が最多の35.0%、従業員1,000名以上の企業が6割以上、課長職以上が約7割

勤務先の業種



従業員規模



役職

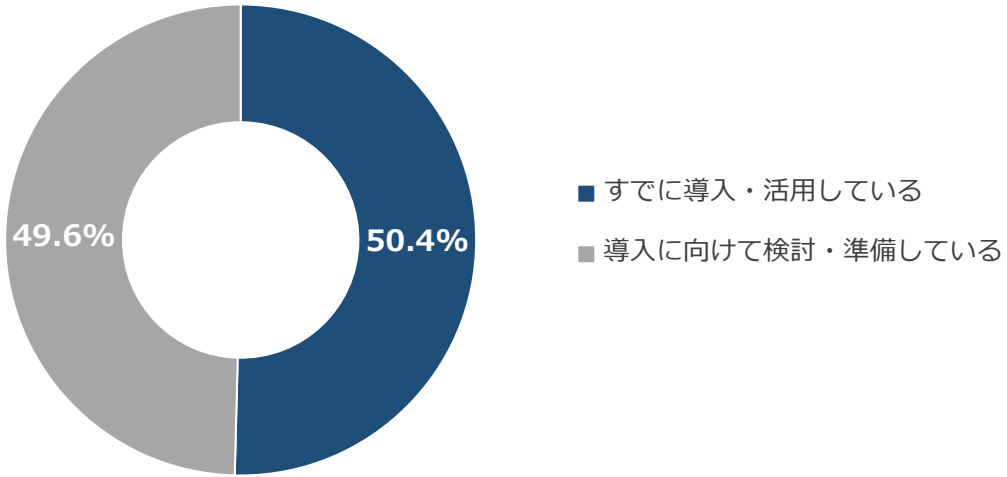
n=554　※回答者の平均年齢：51.7歳

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

「活用層」「検討層」の定義

活用層：生成AIを「すでに導入・活用している」と回答した人
検討層：生成AIの「導入に向けて検討・準備している」と回答した人

Q.あなたの勤務先では、生成AIを導入・活用していますか



n=554

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

調査結果サマリー

1. 生成AI活用の成果を「十分に実感・期待」しているのは14.1%、現場定着に課題
成果につなげる上での課題は「現場での使い方が定着していない」38.6%、「業務プロセスへの組み込みが進んでいない」36.6%が上位

2. 93.0%が社内データの品質・管理を重要視する一方、「十分に整備」はわずか11.2%
重要だと考えながら「あまり／まったく整備されていない」と回答した人は全体の32.7%

3. 78.5%が「社内文書の最新版・確定版が分からないことがある」と回答
社内データの課題は「複数ツール・場所への分散」48.9%、「部署ごとの分断」42.1%が上位

4. 生成AIが社内データを参照する際の不安、最多は「古い情報の参照」52.3%
「誤った情報に基づく回答」47.8%、「機密情報・個人情報の扱い」45.3%を上回る

5. AI利用ガイドラインは約7割が整備済みも、現場で活用されているのは17.5%
整備済みは66.8%。うち全体の49.3%が「整備したが活用は不十分」、「現場でも活用されている」と回答した割合は17.5%

6. 社内データの整備状況によって、「十分な成果実感・期待」の割合に約5.8倍の差
十分な成果を実感・期待の割合は、データ整備が「十分に／ある程度進んでいる」層20.7%、「あまり／まったく進んでいない」層3.6%

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

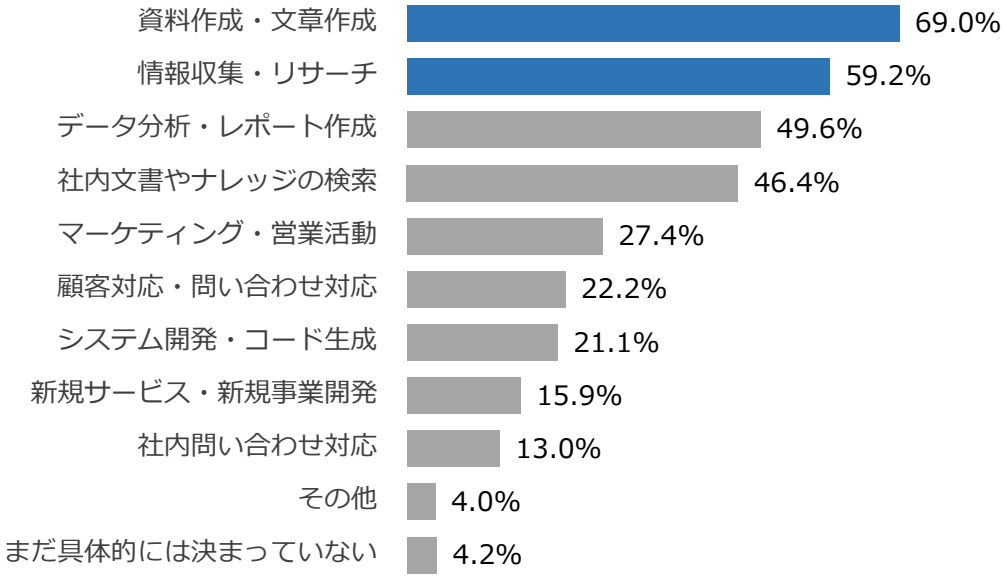
第1章
生成AI活用の現在地

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

1-1 生成AIの活用・検討目的

活用・検討の目的は「資料作成・文章作成」が最多、次いで「情報収集・リサーチ」

Q1. あなたの勤務先では、生成AIをどのような目的で活用、または活用検討していますか（複数回答）｜n=554



活用層と検討層のTop3

活用層（n=279）	
1 **資料作成・文章作成**	**76.3%**
2 **情報収集・リサーチ**	**69.9%**
3 データ分析・レポート作成	58.1%

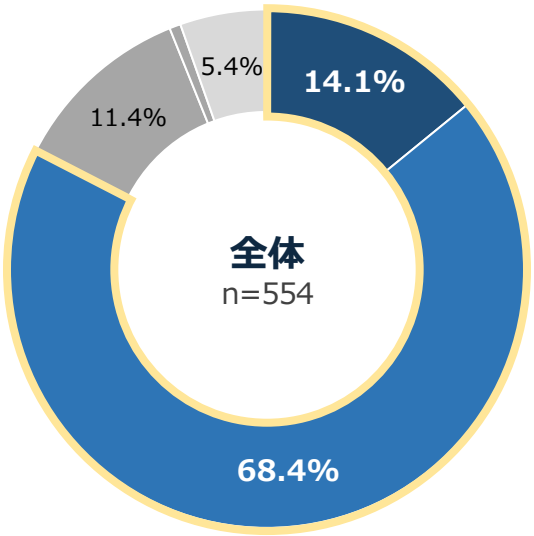
検討層（n=275）	
1 **資料作成・文章作成**	**61.5%**
2 **情報収集・リサーチ**	**48.4%**
3 社内文書やナレッジの検索	41.5%

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

1-2 生成AI活用による成果実感・期待値

82.5%が成果を実感・期待しているが、「十分に」と言い切れる割合は14.1%

Q2. あなたの勤務先では、生成AIの活用・導入検討について、期待する業務成果につながっている、
またはつながる見込みがあると思いますか



- 十分に実感／期待できる
- ある程度実感／期待できる
- あまり実感／期待できない
- まったく実感／期待できない
- まだ判断できない

成果実感・期待の合計※

82.5%

うち「十分に」実感／期待できる

14.1%

8割超が成果を実感・期待する一方、
「十分に」と言い切れるのは
約7人に1人にとどまる

※「十分に」＋「ある程度」の合計

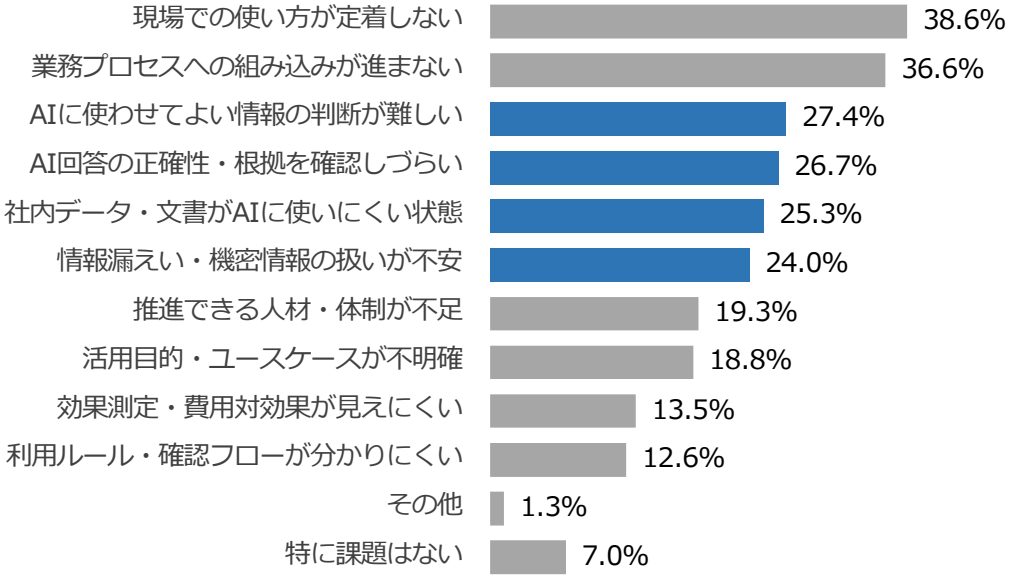
Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

1-3 生成AI活用を成果につなげる上での課題

上位は「現場での定着」38.6%、「業務プロセスへの組み込み」36.6%

Q3. あなたの勤務先で、生成AI活用を成果につなげる上で課題になっていることを教えてください（複数回答）

※青色＝データの扱いに関する課題



n=554

“データの扱い”に関する課題

60.8%

- AIに使わせてよい情報の判断が難しい
- AI回答の正確性・根拠を確認しづらい
- 社内データ・文書がAIに使いにくい状態
- 情報漏えい・機密情報の扱いが不安

のいずれかを課題に挙げている割合

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

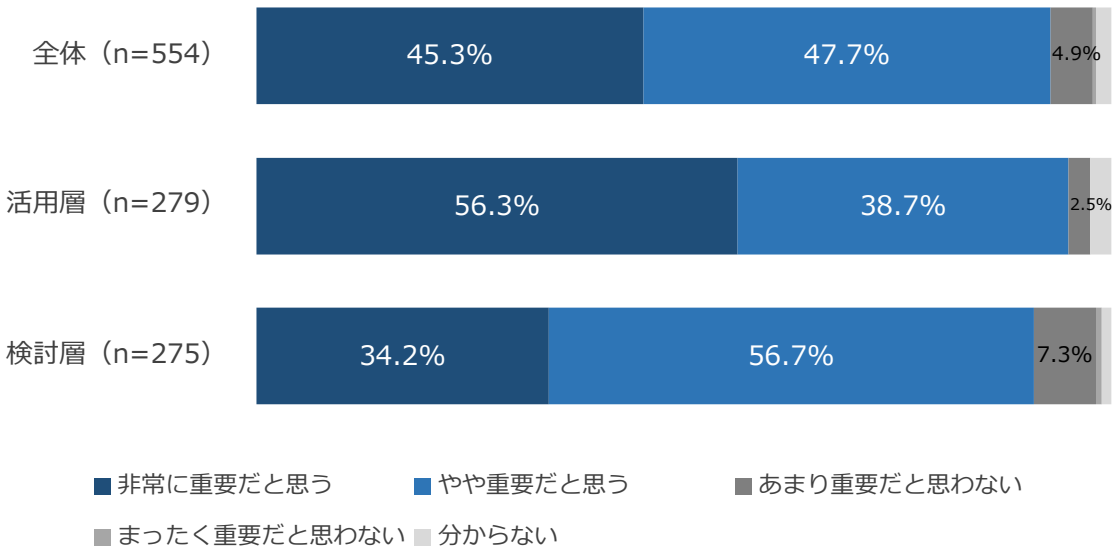
第2章
社内データの実態

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-1 社内データの品質・管理の重要性

社内データの品質・管理を「非常に重要だと思う」割合は活用層と検討層で22.1ptの差

Q4. 生成AIを業務で活用する上で、社内データの品質や管理状態はどの程度重要だと思いますか



「非常に重要だと思う」の差

+22.1pt

（活用層 – 検討層）

「重要だと思う」合計※は全体で

93.0%

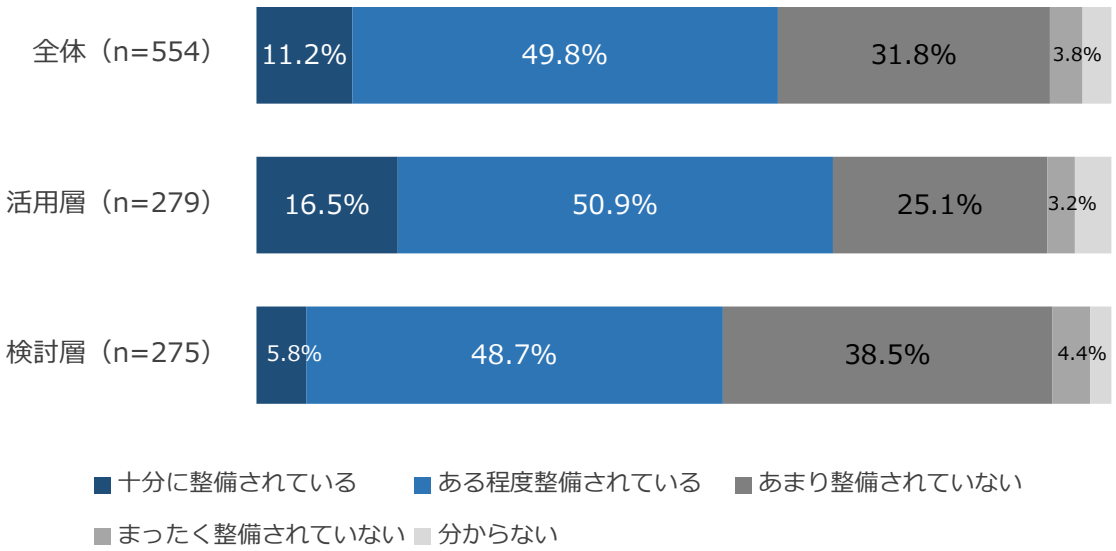
※「非常に重要だと思う」「やや重要だと思う」の合計

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-2 生成AIに活用できる社内データの整備状況

社内データが「十分に整備されている」割合は全体の11.2%にとどまる

Q5. あなたの勤務先では、生成AIに活用できる社内データが十分に整備されていると思いますか



活用層と検討層の差

「整備されている」合計※1

+12.9pt

「整備されていない」合計※2

-14.6pt

（活用層 – 検討層）

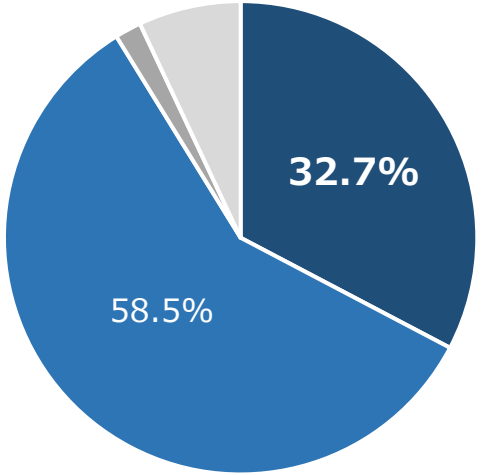
※1「十分に整備されている」「ある程度整備されている」の合計
※2「あまり整備されていない」「まったく整備されていない」の合計

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-3 データの重要性と整備状況のギャップ

社内データの品質・管理を「重要」と考えながら、整備が進んでいない層は32.7%

Q4. 生成AIを業務で活用する上で、社内データの品質や管理状態はどの程度重要だと思いますか
Q5. あなたの勤務先では、生成AIに活用できる社内データが十分に整備されていると思いますか



■ 重要×整備されていない
■ 重要×整備されている
■ 重要×分からない（1.8%）
■ 重要と思わない・分からない（7.0%）

n=554

データ品質・管理を重要だと考えながら整備が進んでいない企業

32.7%

重要と考える層（n=515）に限ると

35.1%

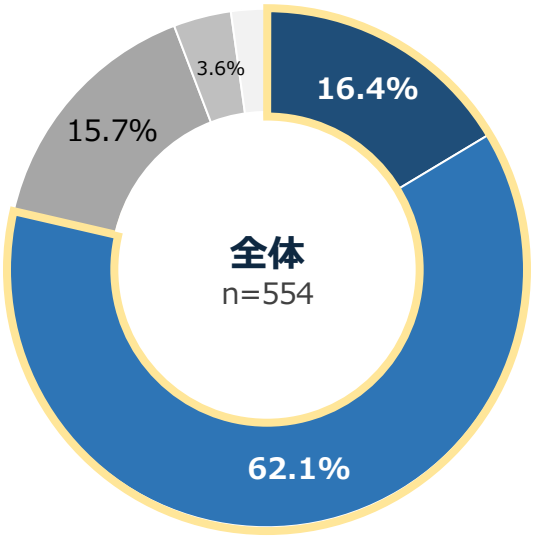
※重要（合計）＝Q4「非常に重要」＋「やや重要」
※整備されていない＝Q5「あまり整備されていない」＋「まったく整備されていない」

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-4 社内文書・ナレッジの最新版管理

78.5%が「どれが最新版・確定版か分からない」と感じることがある

Q7. あなたの勤務先では、社内文書やナレッジについて「どれが最新版・確定版か分からない」と感じることはどの程度ありますか



- よくある
- ときどきある
- あまりない
- まったくない
- 分からない

「よくある」＋「ときどきある」

78.5%

うち「よくある」

16.4%

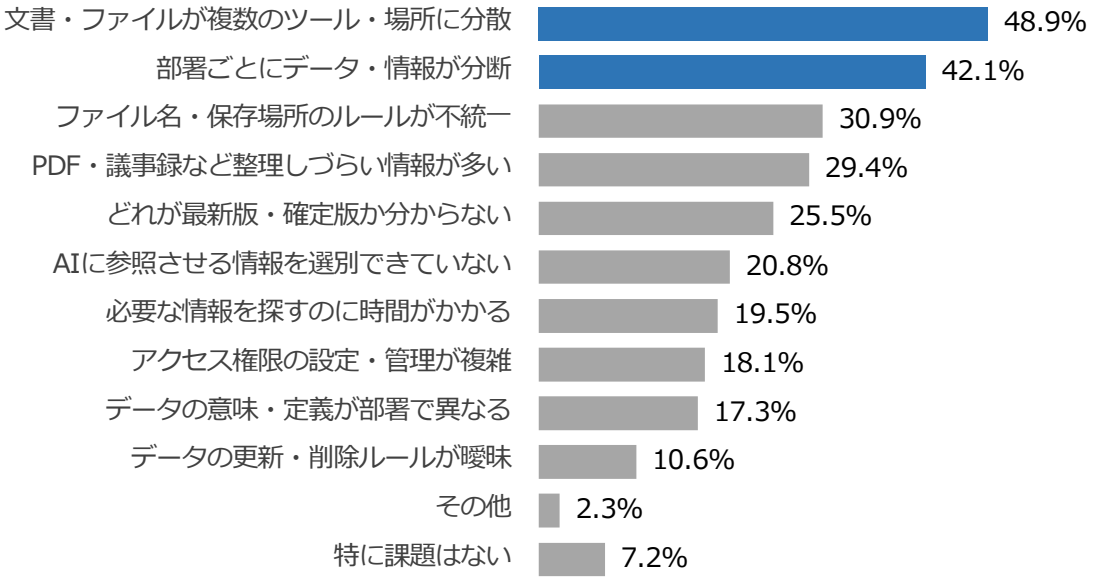
生成AIを導入しても、参照元となる文書の“正しさ”が担保されなければ、誤った回答や手戻りにつながる

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-5 生成AI活用を見据えた社内データの課題

最多は「複数のツール・場所への分散」48.9%、次いで「部署ごとの分断」が42.1%

Q6. あなたの勤務先における、生成AI活用を見据えた社内データ・社内文書の管理状況について、
当てはまる課題を教えてください（複数回答）



n=554

社内データの課題を3つ以上回答

42.6%

※236名／554名が3つ以上の課題を選択

回答者1人当たりの課題数は**平均2.6個**

活用層・検討層ともにTop2は同じ

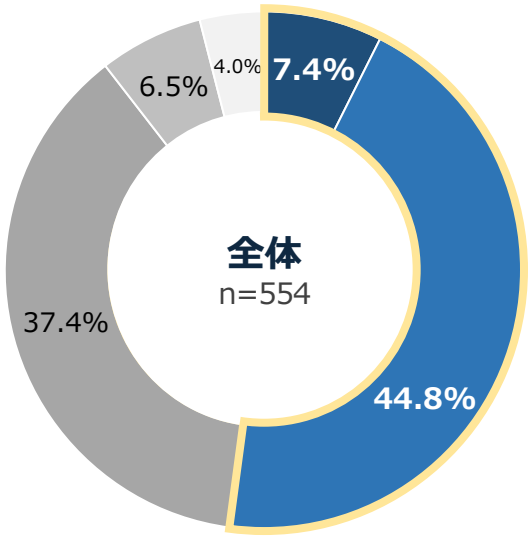
	活用	検討
1 **文書・ファイルが分散**	48.0%	49.8%
2 **部署ごとにデータ分断**	44.4%	39.6%

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-6 データ定義の部署横断での統一

データの意味や定義を部署横断でそろえる取り組みが「進んでいる」合計は52.2%

Q10. あなたの勤務先では、データの意味や定義を部署横断でそろえる取り組みは進んでいますか



- 十分に進んでいる
- ある程度進んでいる
- あまり進んでいない
- まったく進んでいない
- 分からない

「進んでいる」合計※1

52.2%

※1「十分に進んでいる」「ある程度進んでいる」の合計

うち「十分に進んでいる」**7.4%**

「進んでいない」合計※2

43.9%

※2「あまり進んでいない」「まったく進んでいない」の合計

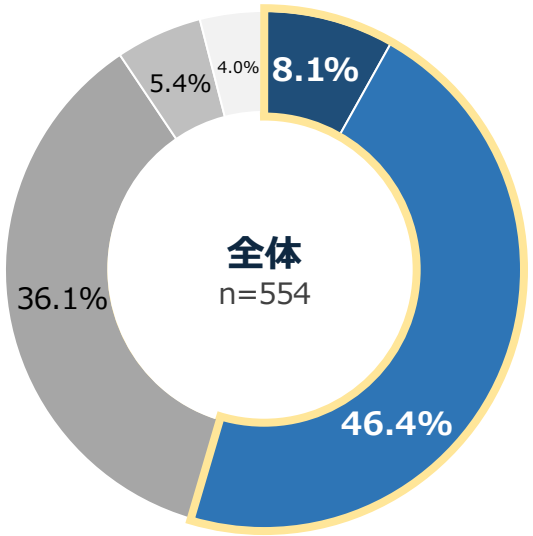
多くは「ある程度進んでいる」段階にとどまる

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-7 業務プロセス・社内用語の整理

AI活用に向けた業務プロセスや社内用語の整理が「進んでいる」合計は全体で54.5%

Q11. あなたの勤務先では、AIが業務内容や社内ルールを理解しやすいように、業務プロセスや社内用語を整理する取り組みは進んでいますか



- 十分に進んでいる
- ある程度進んでいる
- あまり進んでいない
- まったく進んでいない
- 分からない

「進んでいる」合計※1

54.5%

※1「十分に進んでいる」「ある程度進んでいる」の合計

うち「十分に進んでいる」**8.1%**

「進んでいない」合計※2

41.5%

※2「あまり進んでいない」「まったく進んでいない」の合計

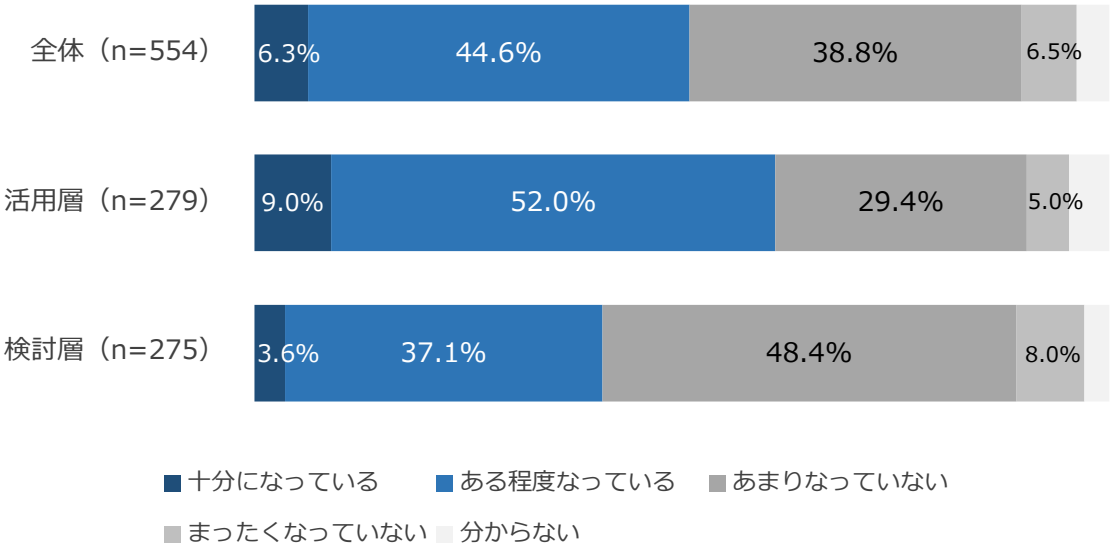
多くは「ある程度進んでいる」段階にとどまる

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

2-8 社内データの一元的な管理・参照

社内データを一元的に管理・参照できる状態に「なっている」合計は全体で50.9%

Q12. あなたの勤務先では、生成AIを活用する上で、社内データを一元的に管理・参照できる状態になっていますか



活用層と検討層の差

「なっている」合計※1

+20.3pt

「なっていない」合計※2

-22.0pt

（活用層 – 検討層）

※1「十分になっている」「ある程度なっている」の合計

※2「あまりなっていない」「まったくなっていない」の合計

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

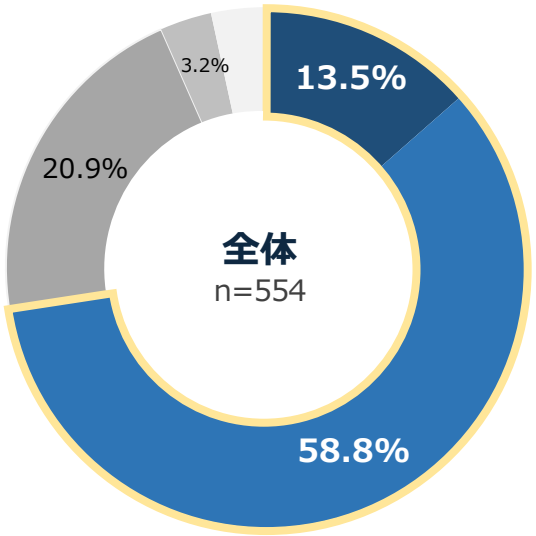
第3章
AI×社内データへの不安とガバナンス

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

3-1 生成AIが社内データを参照する際の不安①

生成AIが社内データを参照する際に、72.3%が不安を感じている

Q8. 生成AIが社内データを参照する際に、不安を感じることはありますか



- 非常に不安がある
- やや不安がある
- あまり不安はない
- まったく不安はない
- 分からない

「不安がある」合計※1

72.3%

※1「非常に不安がある」「やや不安がある」の合計

「不安はない」合計※2

24.1%

※2「あまり不安はない」「まったく不安はない」の合計

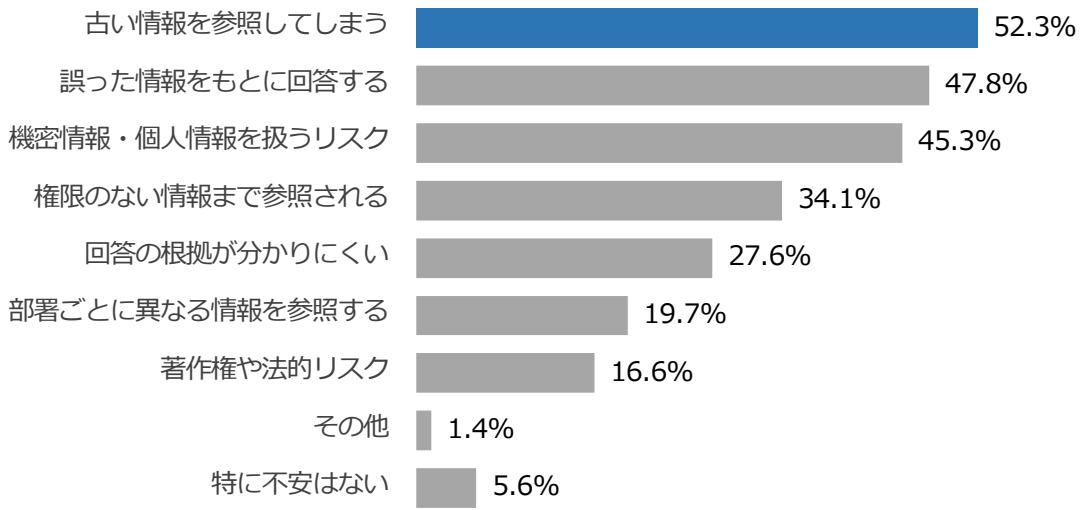
約7割と多くの人が不安を感じている

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

3-1 生成AIが社内データを参照する際の不安②

不安の1位は「古い情報の参照」52.3%で、「機密情報・個人情報」45.3%を上回る

Q9. 生成AIが社内データを参照する際に、不安に感じる可能性がある点を教えてください（複数回答）



n=554

不安に感じる点1位

古い情報の参照

52.3%

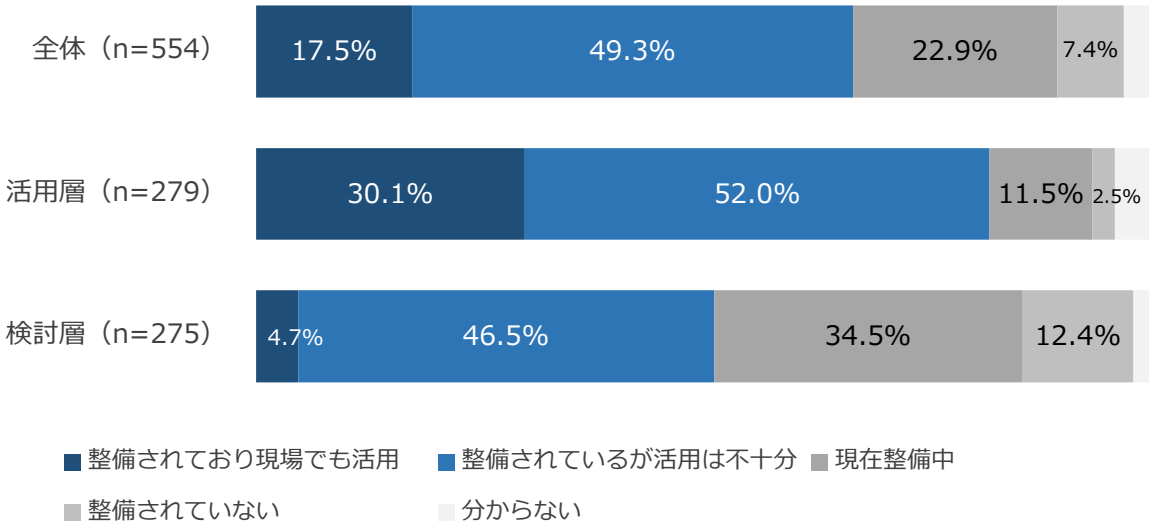
半数以上が「古い情報を参照してしまう」ことを不安視している

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

3-2 生成AIの利用ルール・ガイドラインの整備状況

生成AI利用ガイドラインを整備済みは66.8%だが「現場でも活用されている」は17.5%

Q14. あなたの勤務先では、生成AIの利用ルールやガイドラインは整備されていますか



整備されているが、現場で十分に活用されていない

活用層

52.0%

検討層

46.5%

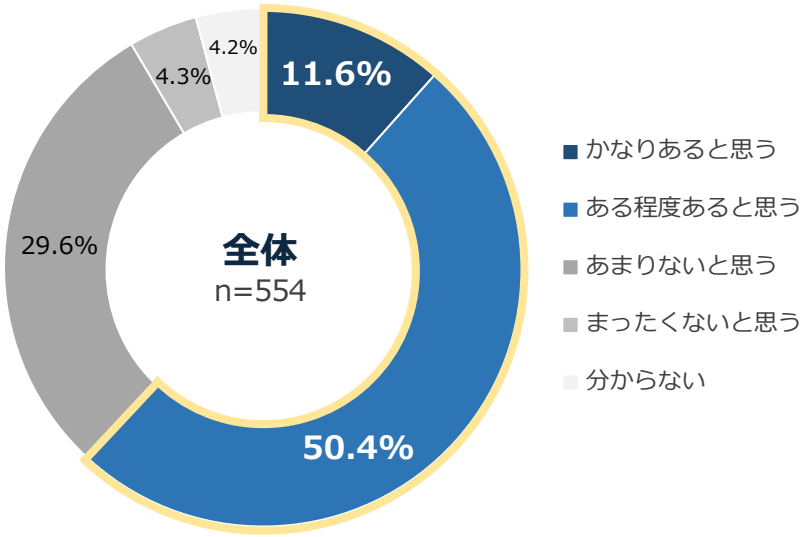
ルールは「つくる」から「現場で使われる」段階への移行が課題

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

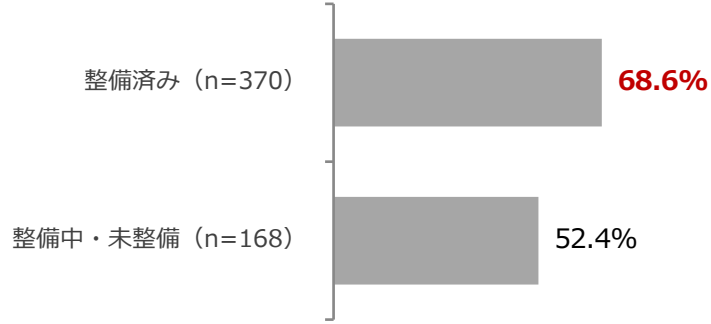
3-3 会社の許可を得ない生成AI利用（シャドーAI）

約6割が「社員が許可なく生成AIを業務利用している可能性がある」と回答

Q13. あなたの勤務先では、社員が会社の許可を得ずに生成AIツールを業務利用している可能性があると思いますか



ガイドライン整備状況別
シャドーAIの「可能性がある」合計



Q14　整備済み＝「整備・現場で活用」＋「整備・活用は不十分」
整備中・未整備＝「現在整備中」＋「整備されていない」
※「分からない」（n=16）を除く

ルールを整備した企業ほど実態を把握しやすい面もあり
整備と並行した利用実態の可視化が求められる

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

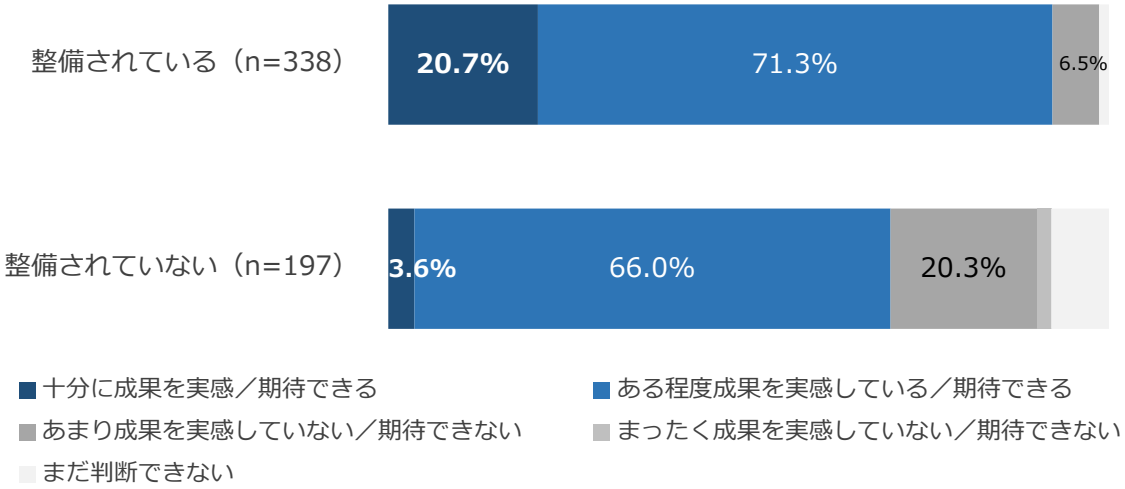
第4章
データ整備と成果の関係

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

4-1 社内データの整備状況別に見た成果実感

整備されている層は「十分に成果を実感・期待」が整備されていない層の約5.8倍

Q5. あなたの勤務先では、生成AIに活用できる社内データが十分に整備されていると思いますか
Q2. あなたの勤務先では、生成AIの活用・導入検討について、期待する業務成果につながっている、またはつながる見込みがあると思いますか



※「整備されている」＝Q5「十分に」「ある程度」整備されている合計
「整備されていない」＝Q5「あまり」「まったく」整備されていない合計
※ Q5「分からない」（n=19）を除く

社内データが整備されている企業は「十分に成果を実感・期待」が

約5.8倍

社内データ整備状況	十分に成果実感・期待
整備されている層	20.7%
整備されていない層	3.6%

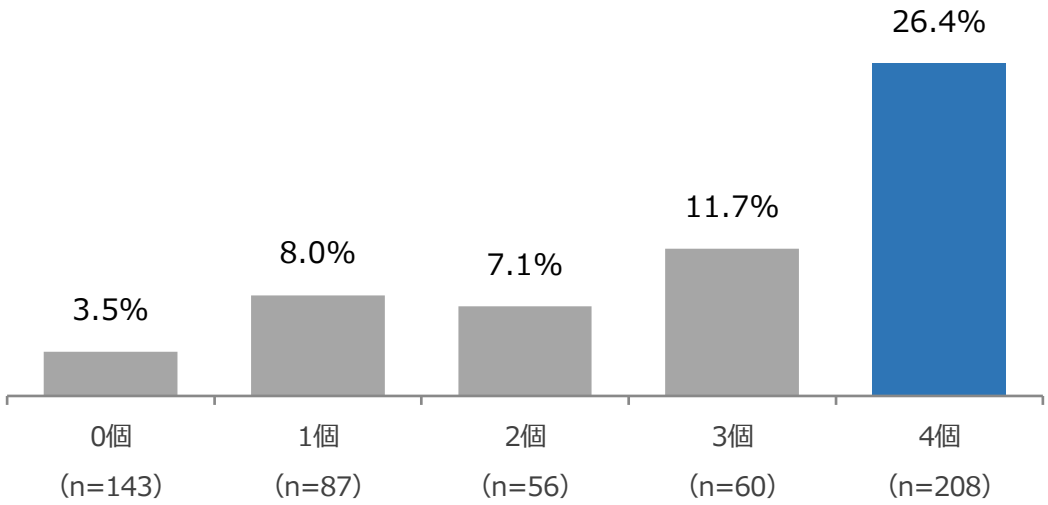
Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

4-2 データ整備の取り組み数と成果実感

4つのデータ整備が進んでいる企業では「十分に成果を実感・期待」が26.4%

進んでいるデータ整備の数別「十分に成果を実感・期待」の割合

n=554



取り組み別
「十分に成果を実感・期待」の割合

取り組み	進んでいる × 十分に成果	進んでいない × 十分に成果
社内データの整備	20.7%	3.6%
定義の統一	20.4%	7.4%
業務・用語の整理	21.9%	4.8%
一元管理	21.6%	6.4%

いずれの取り組みでも、進んでいる層の方が
「十分に成果を実感」の割合が **約3〜6倍** 高い

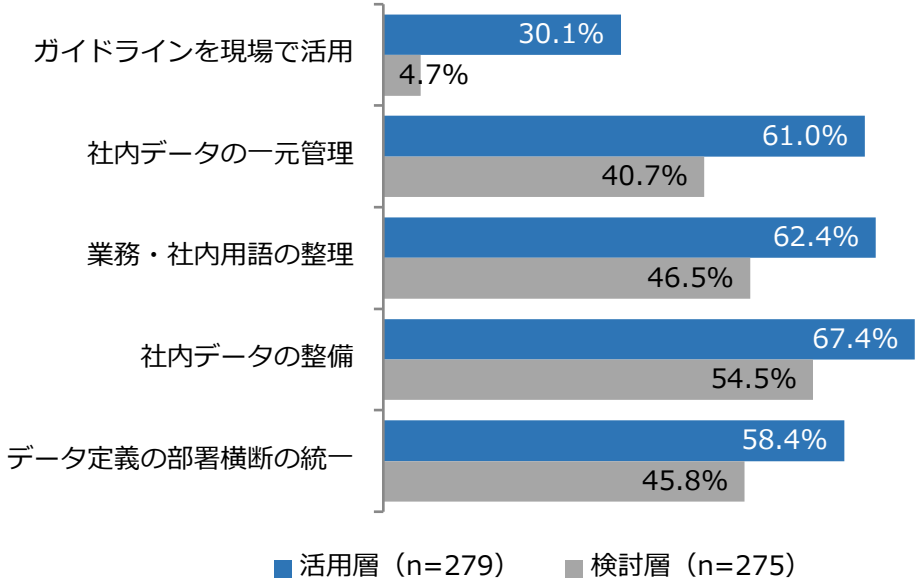
データ整備の数＝Q5 社内データの整備/Q10 定義の統一/Q11 業務・用語の整理/Q12 一元管理で「十分に」「ある程度」進んでいる／なっていると回答した数
成果実感　　＝Q2で「十分に成果を実感している／期待できる」と回答した人

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

4-3 活用層と検討層の違い①

活用層は、検討層よりもガイドライン活用やデータの整備が進んでいる

Q14「整備されており、現場でも活用されている」、Q5・Q10・Q11・Q12「十分に」＋「ある程度」の合計



（活用層）-（検討層）

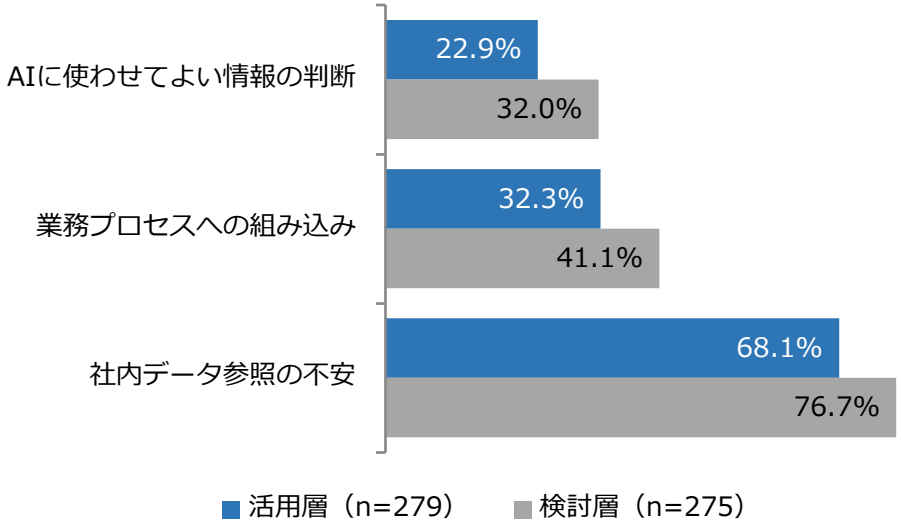
項目	差
ガイドラインを現場で活用	**25.4pt**
社内データの一元管理	**20.3pt**
業務・社内用語の整理	**15.9pt**
社内データの整備	**12.9pt**
データ定義の部署横断の統一	**12.6pt**

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

4-3 活用層と検討層の違い②

検討層は「AIに使わせてよい情報の判断」「業務プロセスへの組み込み」に課題

Q3. 生成AIを成果につなげる上で課題になっていること
Q8. 生成AIが社内データを参照する際に「非常に不安がある」「やや不安がある」の合計



（活用層）-（検討層）

項目	差
使わせてよい情報の判断	**-9.1pt**
業務プロセスへの組み込み	**-8.8pt**
社内データ参照の不安	**-8.6pt**

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

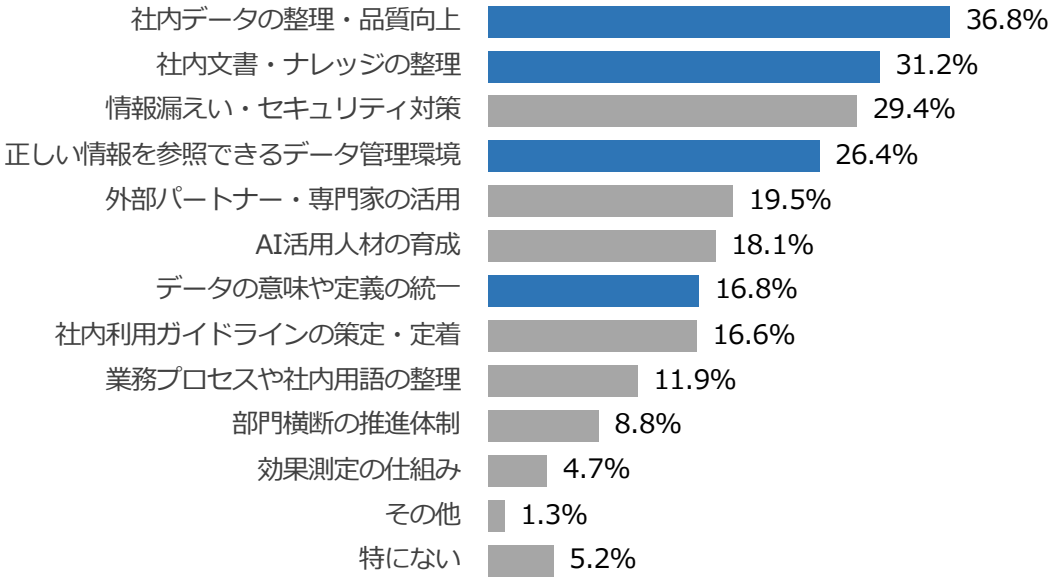
第5章
優先すべき整備領域と提言

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

5-1 今後優先的に整備すべきもの

データ・文書関連のいずれかを挙げた回答者は73.1%にのぼる

Q15. 生成AI活用を成果につなげるために、今後優先的に整備すべきものを教えてください（複数回答・最大3つ）
※青色＝データ・文書関連



n=554

データ・文書関連のいずれかを回答した割合

73.1%

「社内データの整理・品質向上」は
活用層：**41.2%**
検討層：**32.4%**

活用が進むほど
“データ”の優先度が上がる傾向

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

5-2 提言：生成AIを成果につなげるための3つのステップ

生成AIの成果は、ルール・データ・業務プロセスをどこまで整えたかに左右される

STEP 1
AI利用ルールを整備・定着



生成AI利用ガイドラインを整備し、現場で使われる状態にする

調査結果より（P24）

生成AI利用のガイドラインは66.8%が整備済みだが、現場で活用されているのは17.5%にとどまる

STEP 2
散らばったデータを統合



分散したデータを一元的に管理・参照できるようにする

調査結果より（P17、P20）

社内データ課題1位は「分散」48.9%

一元管理できている割合は活用層と検討層で20.3pt差

STEP 3
業務に組み込み、利用・改善



AIを日々の業務フローに組み込み、利用・改善を繰り返す

調査結果より（P11）

成果につなげる上での課題上位は

「現場での定着」38.6%

「業務プロセスへの組み込み」36.6%

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

会社概要

会社名	インキュデータ株式会社
事業開始日	2019年10月1日
本店所在地	東京都港区海岸一丁目7番1号
代表者	代表取締役社長 兼 CEO　町田 紘一
資本金	20億円
株主	ソフトバンク株式会社、株式会社博報堂
事業内容	データ×AIの活用領域におけるコンサルティング事業 戦略立案から、データ基盤の構築・運用、生成AIによる業務AI化までを一貫して支援
URL	https://www.incudata.co.jp/

主な支援領域

- データ基盤構築
- データ分析
- データプライバシー
- AI活用戦略
- AI活用推進
- AIデータ最適化
- パーパス＆戦略策定
- データマーケティング
- 組織デザイン、人材育成

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

インキュデータの支援例

生成AIを成果につなげるための各ステップを伴走しながらご支援

STEP 1	STEP 2	STEP 3
AI利用ルールを整備・定着	散らばったデータを統合	業務に組み込み、利用・改善
		
・生成AIガバナンスポリシー策定 ・全社データマッピング ・推進体制の構築	・データ基盤構築 ・AI参照データの棚卸し・構造化 ・権限制御の実行	・業務フロー再設計・PoC ・教育プログラム設計 ・効果測定と改善サイクルの構築

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.

本調査結果のご利用について

本レポートの内容を引用・転載される場合は、以下の条件でご利用ください。

1. 出典として**「インキュデータ株式会社『企業の生成AI活用における「社内データ品質・管理」の実態調査』（2026年）」**を明記してください。
2. Webサイトに掲載される場合は、出典元として **https://www.incudata.co.jp/** へのリンクを設置してください。
3. 数値やグラフの加工・改変は、調査結果の趣旨を損なわない範囲でお願いします。

本調査に関するお問い合わせ

インキュデータ株式会社　広報担当（E-mail：incudata-pr@incudata.co.jp）

Copyright © 2026 INCUDATA Corporation. All Rights Reserved.